

## 「旧約の信仰者たちの手本」士師たち ① (11:32~34)

## ■ヘブル人への手紙の構成

二つの主要な区分	内容	箇所	警告
第一区分： 神学的理論を中心に (適用としての警告 も含む) ユダヤ教の三本柱と 御子との比較	テーマ	1:1~3	
	天使たちに優る御子	1:4~2:18	警告① 2:1~4
	モーセに優る御子	3:1~6	
	第二の警告	3:7~4:13	警告②
第二区分： 適用(御子の優位性を 理解した上での、信者 の歩み)	アロンに優る御子 (レビ族アロンの家系の祭司 職に優る御子)注①	4:14~10:18	警告③ 5:11~6:20
	勧めのための2つの基盤と4 つの勧め、警告、励まし	10:19~39	警告④ 10:26~31
	旧約の信仰者たちの生き方を 手本とする	11:1~40	
	信仰をもち続けることの勧め	12:1~29	警告⑤ 12:25~29
	まとめとしての勧め	13:1~25	

注① レビ族アロンの家系の祭司職 ⇒ 以下、「レビ系祭司職」

## ■「旧約の信仰者たちを手本とする」11章の構成

細目	内容	箇所
信仰の忍耐	信仰の特徴	1節
	このような生き方が可能であることを実証した人々がいる	2
	目に見えないものを確信する事例=天地創造	3
族長時代以前	アベル	4
	エノク	5~6
	ノア	7
族長たち	アブラハム	8~19
	イサク	20
	ヤコブ	21
	ヨセフ	22
荒野の旅	モーセの両親	23
	モーセ	24~28
	イスラエル民族の人々	29~30
	ラハブ	31
試練の中で	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち)	32~34
	信仰は死を乗り越える	35~38
信仰の勝利		39~40

## ■ 旧約の信仰者たちの手本

手本となる生き方	信仰者と（関連箇所）	箇所	
神の定めた方法によって、神に近づく	アベル（創4:2~8、マタ23:35）	4	
神のことばを伝える。世からは拒絶される。しかし、神との交わりの中に憩う＝神と共に歩む、神に喜ばれる	エノク（創5:21~24、ユダ14~15）	5~6	
神の命令に従順に従う 世を罪に定める	ノア（創6:1~22、Ⅱペテ2:4~5）	7	
神の召命を受けて 生まれ故郷を離れる	ア ブ ラ ハ ム  (使徒7:2~5、創11:31~12:7)	8	
寄留者となる		(創13:18、22:19、23:4、24:67、 25:27)	9
		(創24:7)	10
不可能でも子が生まれる という約束を信じる		(創17章、ロマ4:17~22、創18:1~15)	11~12
目の前の土地ではなく、 より優る国を求める		【イサク、ヤコブも】	13~16
イサクを捧げることを通 して復活信仰を表明する		(創22:1~18)	17~19
未来について、神の約束 を信じる	イサク（創25:21~34、27:1~40、28:1~5）	20	
	ヤコブ（創47:28~48:20）	21	
	ヨセフ（創50:22~26）	22	
神のみこころを受け取っ たとき、信仰によって決 断し、実行する	モーセの両親（出2:1~2）	23	
	モーセ（出2:3~15）	24~26	
	モーセ（出2:15~25、3:1~13:16）	27~28	
	イスラエルの民（出13:17~14:31） （ヨシュ1:1~6:21）	29 30	
	ラハブ（ヨシュ2:1~24、6:22~25、マタ1:5）	31	

手本となる生き方	信仰者と (関連箇所)	箇所	
試練の中で、信仰による <u>勇氣</u> を發揮した	イスラエル国史に見る信仰 (士師たち・王たち・預言者たち) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     士師たち : ギデオン、バラク、サムソン、エフタ                      王たち : ダビデ                      預言者たち : サムエル                 </div>	32~34	
国家的勝利を得た	国々を征服した	ヨシュア、士師たち、ダビデ	33
	正しいことを行った	ダビデ、サムエル	
	約束のものを得た	ギデオン、バラク、ダビデ	
個人的救出を体験した	獅子の口をふさいだ	ダニエル、サムソン、ダビデ	34
	火の勢いを消した	ダニエルの3人の同僚たち	
	劍の刃をのがれた	モーセ、エリヤ、エリシャ、エフタ、ダビデ	
個人的な賜物を發揮した	弱い者なのに強く	ギデオン、サムソン、ダビデ	
	戦いの勇士となり	ヨシュア、バラク、ダビデ	
	他国の陣営を陥れた	ダビデ、ヨシヤパテ	
信仰は <u>死を乗り越える</u>	女たちは死んだ者をよみがえらせてもらった 【I列17:8~24、II列4:8~37、ルカ7:11~17、ヨハネ11:1~44】 (これに対して) ほかの人たちは、 <u>さらにすぐれたよみがえり</u> を得るために、釈放されることを願わないで・・・	35~38	
ほかの人々は、死に至るまでの信仰を示した	あざけられ、むちで打たれ	エレミヤ エレ20:2	36
	鎖につながれ、牢に入れられる	ヨセフ	
	石で打たれ	ゼカリヤ II歴24:20~22	37
	のこぎりで引かれ	イザヤ	
	試みを受け	ヨセフ	
	劍で殺され	ウリヤ IIサム11:14~25、12:9	
	羊とやぎの皮を着て歩き回り	エリヤ II列1:8	
	乏しくなり悩まされ苦しめられ	預言者たち	
	荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよった	オバデヤ I列18:3~6	38
	この世は、彼らにふさわしい所ではなかった		
11章全体の結論 信仰の勝利	旧約の聖徒たちは、約束のものをまだ受け取っていない。約束の成就是、未来のこと。	39	
さらにすぐれたもの 【メシア王国】 を、受け継ぐ	旧約の聖徒たちが待たされる理由は、私たち新約の聖徒たちといっしょに受けるため。同時に、私たち新約の聖徒たちは、旧約の聖徒たちの忍耐を手本として、忍耐をもって信仰生活をするため。	40	

■ 士師記の時代 (Ariel's Bible Commentary "Judges & Ruth"や聖書辞典を元に、清水が作成)

*1	士師/リーダー	時期(紀元前)*4	年数	備考	救助者?
		(1447-1407)	40	出エジプトから荒野の旅	
		(1407-1400)	7	約束の地の征服(ヨシュ 14:7~10)	
		(1400-1390)	10	分割からクシャン侵攻迄	
		(1390)		ヨシュアの死 110歳	
		(1390-1382)	8	クシャンによる支配	
1	オテニエル	(1382-1342)	40		○1
		(1342-1324)	18	モアブ人による支配	
2	エフデ	(1324-1244)	80		○2
3	シャムガル			エフデと同時期	○3
4	女預言者デボラ	(1244-1224)	20	ヤビンによる圧迫	
5	バラク	(1224-1184)	40		○4
		(1184-1177)	7	ミデヤン人による圧迫	
6	ギデオオン	(1177-1137)	40		○5
	【アビメレク】	(1137-1134)	3	私選の部族長	
7	トラ	(1134-1111)	23		×
8	ヤイル	(1111-1089)	22		×
		(1089-1071)	18	東側アモン人*2	
9	エフタ	(1071-1065)	6	アモン人が宣戦	○6
10	イブツァン	(1065-1058)	7		×
11	エロン	(1058-1048)	10		×
13	アブドン	(1048-1040)	8		
12	サムソン	(1069-1049)		誕生は(1087)*3	○7
	エリ	(1107-1067)		ペリシテ人に契約の箱を奪われて死す	
	サムエル	(1067-1020)	20	【年数20は、アブドン終了1040年から】	
		(1047)		エベン・エゼルの戦い Iサム7章	
		(?)		サウルを王とする *5	
		(-1020)		ダビデに油注ぎ、死す・ダビデ20歳逃亡中	
		(1020-1010)	10	サウル王の統治後期	
		(1010-1003)	7	ダビデ王30歳ヘブロン	
		(1003-970)	33	ダビデ王エルサレム	
		(970-967)	3	ソロモン王神殿着工まで	
合計			480	I列6:1	

350年

\*1 士師記には、13人の士師が記録されている。祭司エリ(Iサム1:3、4:18)と預言者サムエル(Iサム3:20、7:15)は、士師記に記録ないが、士師である。

\*2 9番以降の士師は、活動の領域が、ヨルダン川の東と西に分かれる。東はアモン人、西はペリシテ人の攻撃を受けたため(士10:7~8)。東ではエフタ以下4名。西では、エリ、サムソン、サムエル。

\*3 士13:1のペリシテ人の支配40年間は、サムソンが誕生する頃からエベン・エゼルの戦い迄

\*4 時期は、出エジプトを(1447)と仮定し、「年数」を当てはめたもの。おおよその推定年である。

\*5 サウルが王となった時期については、不明。

- Iサム 13:1「サウルは30歳で王となり、12年間イスラエルの王であった」。原文では「サウルは〇歳で王となり、2年間イスラエル王であった」。欠けている年齢を「30」と推定し、2年間の十の位の単語が欠けていると推定して「12」年間と訳したものである。この訳では、サウルの死亡時の年齢が42歳となる。サウルが死んだときに息子のイシュ・ボシェテは40歳である(IIサム2:10) ことを見ると、この訳は誤りである。
- Iサム 13:1の「2」年間の、「20」年間と推定する説や、サウルの王となった時期を、紀元前1043年頃と推定する説などがある。
- 使徒 13:21では、サウロの在位期間を「40年間」としている。サウロ王が戦死した紀元前1010年から40年さかのぼると、紀元前1050年頃となる。この時期は、サムエルが士師として指導的立場にあったところである。サウルの登場は、エベン・エゼルの戦い(紀元前1047年頃)よりも後なので、サウルが王となった時期を紀元前1050年頃とするのは無理がある。「40年間」というのは、サムエルとサウルによる統治期間を通算して指していると考えられる。

## ■ 士師たち ① ギデオン

1. イスラエルの罪 → ミデヤン人たちによる圧迫(士6:1~6)
2. イスラエルの叫び → 預言者を通しての主の応答(6:7~10)
3. 救助(6:11~8:21)

(1) ギデオンが召される(6:11~24)

(2) バアルの祭壇を取り壊す(6:25~32)

(3) 軍団召集(6:33~35)

(4) 羊の毛のしるし(6:36~40)

(5) 両軍の布陣(7:1)

(6) イスラエル軍の削減(7:2~8)

① 1回目の削減(7:2~3) 恐れる者を帰す(申20:8)

② 2回目の削減(7:4~6) 注意深くない者をベースキャンプで待機させる

- 5節 別に分けるべきグループについての2つの条件

☞ コル「~する者を全部」びちゃびちゃと水を舌でなめて飲む、犬が水をびちゃびちゃと飲むように、  
あなたは彼らを別にしておかねばならない。

☞ コル「~する者を全部」「たとえ~するとしても」水を飲むために、ひびをつく。

【そうせよ】=別にしておけ・・・これは原文になく、翻訳時の付加。

- 泉で水を飲むときには、全員がひざをついてかがむ。
  - そのうち、両手で水をすくい、その水を口にもって行って、舌でなめるように飲んだ者は、300人。
  - その他の者は、ひざをついてかがむまでは同じ。そのまま顔を水につけて、がぶ飲みした。
- ③ 300人 (7:7~8)
- (7) ミデヤン連合軍の陣営内を偵察 (7:9~14) 「もし・・・恐れるなら」(10節)
- (8) 戦いの準備 (7:15~18) 剣は持っていない
- (9) ミデヤン軍陣営への夜襲 (7:19~23)
- ① 第一の見張り (夕方 18時~22時)、真ん中の見張り (22時~2時)、第三の見張り (2時~6時朝)
  - ② 「真夜中の夜番」=真ん中の見張り、その始まる時=22時。見張りが交替して間もなく、まだ夜の闇に見張りの目が慣れないとき。
- (10) エフライム族への召集 (7:24~25)
- (11) エフライム族からの抗議 (8:1~3)
- (12) スコテの町からの冷遇 (8:4~7)
- (13) ペヌエルの町からの冷遇 (8:8~9)
- (14) ミデヤンの二人の王、ゼバフとツアルムナを捕らえる (8:10~12)
- (15) スコテの町に対する処罰 (8:13~16)
- (16) ペヌエルの町に対する処罰 (8:17)
- (17) ゼバフとツアルムナの処刑 (8:18~21)
4. ギデオンの士師職と平穏な時期 (8:22~32)
- (1) 22~23節 王になることは拒む
  - (2) しかし、王のような行動をとる傾向があった
    - ① 24節 戦士たちが全員、ギデオンに服従する象徴的行為になる
    - ② 26節 金 (約 20 kg、現在価値 93 百万円)、さらにおびただしい宝石、王の衣
    - ③ 30節) 大ぜいの妻
    - ④ 31節 子のひとりの名「アビメレク」=わが父は王なり
  - (3) 27節 祭司でもないのに、エポデを作る
    - ① エポデは、大祭司が幕屋で着用するもの (出 28:6~29)
    - ② 幕屋は、当時、シロにあった。(ヨシュ 18:1、士 18:31、21:19)
    - ③ ギデオンが、自分の町オフラでこれを着て主に伺いを立てるとか、犠牲を捧げたとすると、律法違反 → イスラエルの民がバアルなどの偶像崇拝に陥る下地となる → 「イスラエルはみな、それを慕って、そこで淫行を行った」
    - ④ 「ギデオンとその一族にとって、落とし穴となった」→ 9章アビメレク事件